

第 22 回日本循環器看護学会学術集会 実践・症例報告の抄録の書き方のコツ

オンデマンド事前教育セミナー①で、実践・症例報告の抄録の作成例を説明しています。初めて発表を試みるみなさんにご視聴ください。[ご視聴はこちらをクリック](#)

タイトル：

「どのような人」に対する「どのような看護実践・業務改善・看護管理・人材育成」の報告か、80 字以内で表しましょう。文字数に余裕があれば、実践の成果や目標を入れることを推奨します。

例：（看護実践の場合）〇〇〇な患者さんへの◇◇◇のための◆◆◆に関する症例報告
（業務改善・教育実践の場合）◇◇◇のための〇〇〇に対する◆◆◆の試み

本文：

以下の構成を例に、WORD 等で作成し、文字数を確認して登録システムにコピー＆ペーストします。ただし、登録システム上の文字カウントは若干異なることがあります。確認の上、800 字以内に調整してください。

【目的】

タイトルと同様に、「どのような人」に対する「どのような看護実践・業務改善・看護管理・人材育成」によって得られた成果の共有や成果・目標の評価（分析）を報告するか表しましょう。可能ならば、その実践の「意義や背景」を含めて表しましょう。

例：〇〇〇な患者さんへの◇◇◇するための、◆◆◆に関する成果と課題を報告する。

【症例】

どのような症例なのか、特徴がわかるキーワードを入れて紹介しましょう。倫理的配慮は、同意を得た方法や個人情報保護の配慮を記載します。倫理審査に関しては、所属施設の方針に従ってください。

※事例・症例の特徴を紹介しつつ、固有名詞が匿名化されているか十分に確認してください

※業務改善や看護管理等の実践報告の場合、解決したかった問題とその原因、構造を説明してください

※結果や考察を説明するときに必要な情報は何かを考え、症例に関する情報を選択してください

【実践（計画）】

「誰が」、「いつ/どの期間/どのくらい」、「どこで」、「何のために」、「どのように」行ったか、実践内容を説明しましょう。

※再現性を意識して、読み手がこの記述を読んで同じように実践できるかを意識して作成してください

※看護実践の場合、症例の看護問題とその成因、看護目標と実践した主要な計画を書きます

※ガイドライン等の実践適用例であれば、そのエビデンスを明記します

【結果】

計画していた目標をふまえて、実践した結果を説明しましょう。

※【実践（計画）】に記した目標達成について、その証拠となる情報（S 情報・O 情報）を明記します

※実践した結果の適切性を評価する（考察する）ために、必要となる情報を示してください

※うまくいかなかった結果も、考察でその原因を分析して改善案を出すことが大切です

【考察】

結果の原因や背景を分析し、実践の「良かったこと」、「不足していたこと、課題」について、説明しましょう。判断した根拠として、看護理論やエビデンス等をうまく活用して説明してください。さらに、今後、どのような環境や症例等で適用できるのかを示しましょう。

※実践の結果に至った原因や背景を分析し、行った実践は看護としてどのような意味や価値があったのか、根拠に基づいて説明することが肝要です

※Good-practice と言えること、または、今後の Good-Practice に役立つことを主張し、それが社会に広がるように報告し、実践の価値を伝えましょう